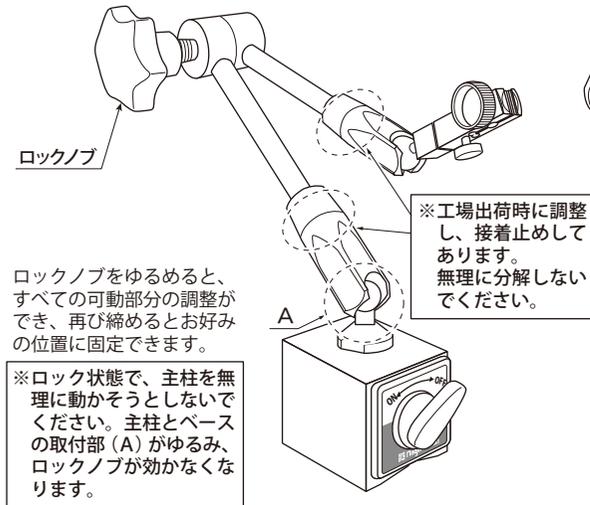


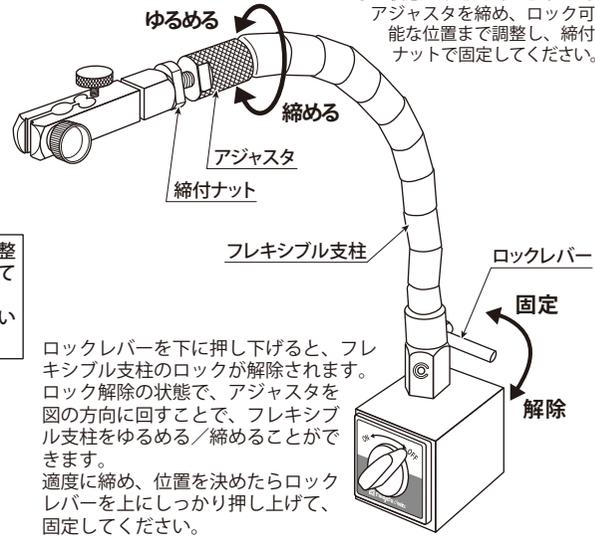
SB-6C	SB-6B	SB-80P
SB-80F	SB-25M	SB-100G
		MB-7

**6 SB-100G/MB-7の場合**

例) SB-100G



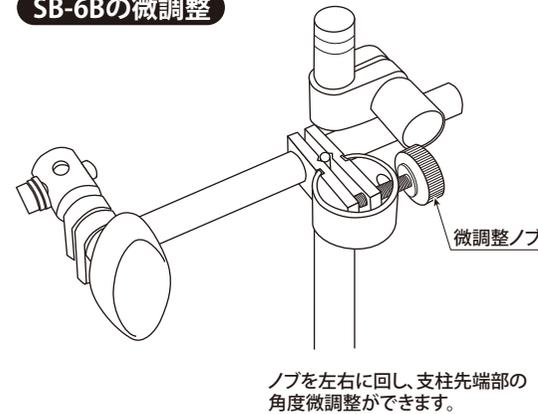
**7 SB-80Fの場合**



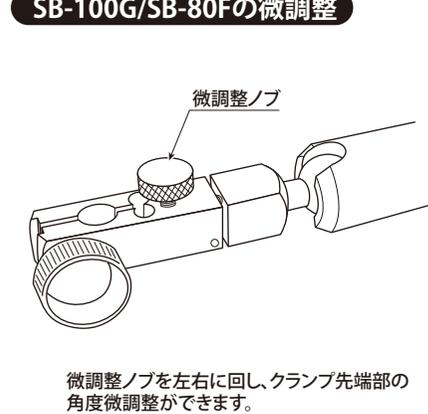
**8 最後に微調整を行います。(SB-6B/SB-100G/SB-80F)**

それぞれ下図のように調整します。

**SB-6Bの微調整**



**SB-100G/SB-80Fの微調整**



**5 保管について**

**●強い磁界が発生します**

●必ずOFFにして保管してください。ONのまま吸着面に鉄板を吸着させておきますと、不用意な吸着による事故につながります。

**取扱説明書**

この度はマグネットベースをお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。ご使用前に、この取扱い説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、必ず大切に保存してください。

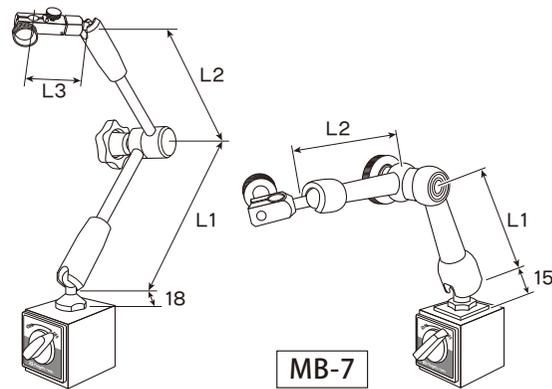
**1 安全上のご注意**

- (1) 強い磁界が発生します**
  - 時計などの精密機器やパソコン、磁気カードを近づけると、その機能を損なう恐れがあります。
  - ペースメーカー使用者は、マグネットツールを取り扱わないでください。
- (2) 強い磁力を発生します**
  - 不用意に鋼板などに近づけると、強い吸着力のために急に引き付けられ、指先などにけがをする危険があります。手袋の使用など、身体の安全に心掛けてください。
  - ON/OFFレバーがOFFになっていることを必ず確かめてから、鉄に近づけてください。
- (3) 吸着力は大きく変化します。**
  - 以下の場合には吸着力が低下しますのでご注意ください。
    - ・吸着対象物が薄い。
    - ・軟鋼板以外の材質に吸着させている。
    - ・吸着する面に凹凸やゴミの付着、塗装などによる隙間がある。
  - 吸着する力に比べ、吸着物が横すべりする力は、はるかに大きくなります。垂直な面に吸着させる場合は、特に注意が必要です。
  - 機械の振動などによって、吸着物はすべりやすく、はがれやすくなります。
- (4) 吸着力を確認してください。**
  - ご使用に際しては、まず対象物に吸着させてみて、用途に足る吸着力であることを必ず確認してください。
- (5) マグネット本体を支えてON/OFF**
  - 不用意にON/OFFレバーを操作すると、突然磁力が消え、落下したり倒れたりして、事故を引き起こす危険があります。必ず本体を支えて、ON/OFF操作を行ってください。
- (6) 使用後の保管は磁力に注意**
  - 必ずON/OFFレバーをOFFにして保管してください。(ONのまま吸着面に鉄板を吸着させておきますと、不用意な吸着による事故につながります。)
- (7) 本製品は、工業用に設計・製作された強力なツールです。**
  - 本製品は、工業用に設計・製作されておりますので、一般家庭やオフィスで使用される場合は、十分注意してお使いください。

## 2 仕様

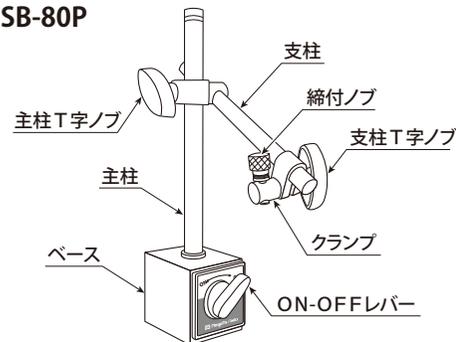
品番	仕様	ダイヤルゲージ 取付穴	吸着力 (約)	ベース寸法 W×D×H mm	支柱寸法 φ×L mm	支柱寸法 φ×L mm	支柱取付 ねじ径	質量 (g) (約)
SB-6C	標準型	φ6.0mm/ φ8.0mm/ 耳金付ダイヤルゲージ用	800 N	50×60×55	12×178	10×165	M8	1500
SB-6B	微動付	φ6.0mm/ φ8.0mm/ 耳金付ダイヤルゲージ用	800 N	50×60×55	12×178	10×165	M8	1500
SB-80P	太支柱タイプ	φ6.0mm/ φ8.0mm/ 耳金付ダイヤルゲージ用	800 N	50×60×55	14×178	12×165	M8	1500
SB-80F	フレキシブル タイプ (微調整ノブ付)	φ6.0mm/ φ8.0mm/ アリ溝付	800 N	50×60×55	16×340	—	M8	1300
SB-25M	ミニタイプ	φ6.0mm	250 N	30×35×35	7×54	—	M5	270
SB-100G	ロックタイプ (微調整ノブ付)	φ6.0mm/ φ8.0mm/ アリ溝付	1000 N	50×75×55	L1×L2×L3 145×125×50 (イラスト参照)	—	M8	1700
MB-7	ミニロックタイプ	φ6.0mm/ φ8.0mm/ アリ溝付	250 N	30×35×35	L1×L2 64×55 (イラスト参照)	—	M5	420

注意) ミニタイプのマグネットベースに大型のダイヤルゲージなどを取り付ける場合、ダイヤルゲージの重さに対し、マグネットの吸着力が不足していないか確認して取り付けてください。吸着力不足の場合マグネットが不意に脱落し、機器の破損につながります。

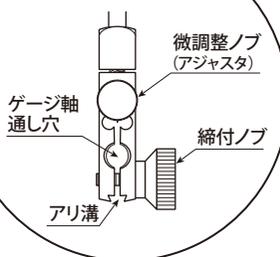


## 3 各部の名称

例) SB-80P



SB-80F, SB-100G,  
MB-7のクランプ部



※ゲージ軸通し穴には軸径6mm用のコレットが付属しています。ゲージの軸径に合わせてご使用ください。

## 4 使用方法

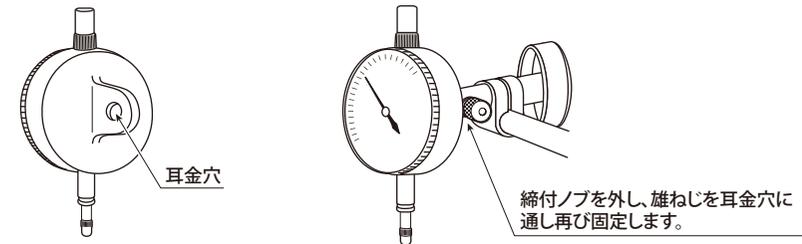
1 付属のクランプに取り付可能なダイヤルゲージなどをご用意ください。(適応するタイプは、2仕様欄をご確認ください。) マグネットは本体のON-OFF切替により脱着可能です。

※ダイヤルゲージの耳金に取り付ける場合 (SB-80P/SB-6B) ⇒ 2を参照してください。

※ダイヤルゲージの軸に取り付ける場合 ⇒ 3を参照してください。

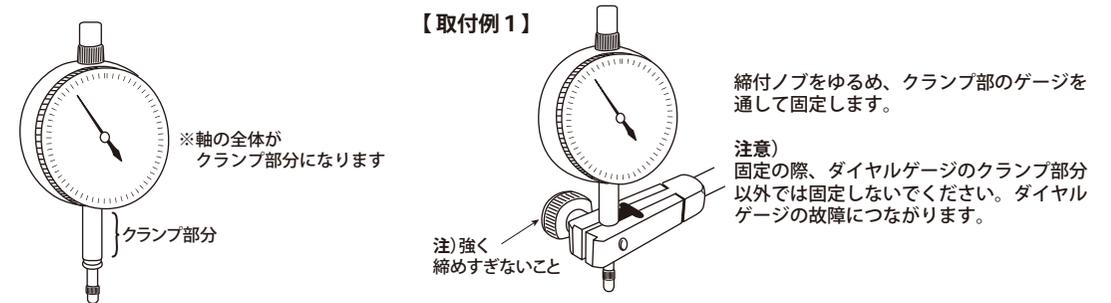
※テストインジケータ等をアリ溝に取り付ける場合 (SB-80F/SB-100G/MB-7) ⇒ 4を参照してください。

### 2 ダイヤルゲージの耳金に取り付ける場合

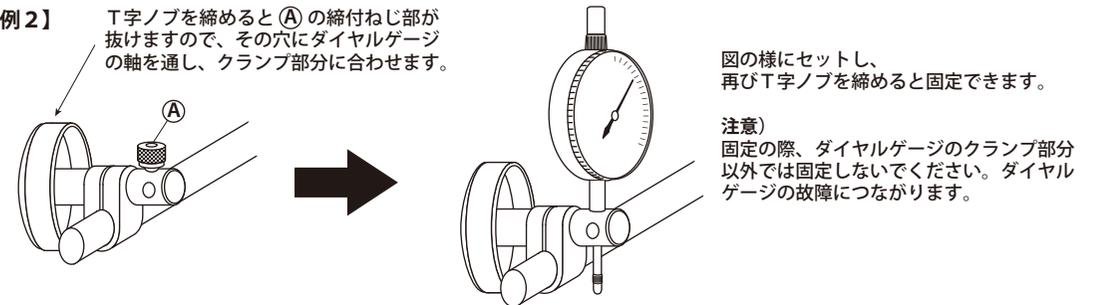


### 3 ダイヤルゲージの軸に取り付ける場合

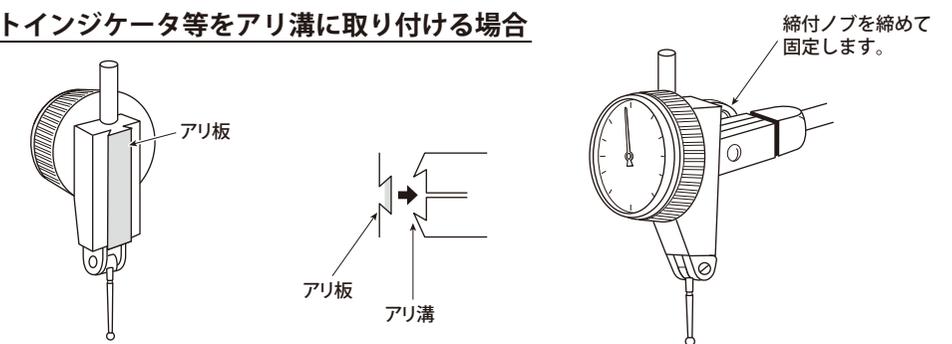
※あまり強く締めすぎないでください。



【取付例2】 T字ノブを締めると(A)の縮付ねじ部が抜けますので、その穴にダイヤルゲージの軸を通し、クランプ部分に合わせます。

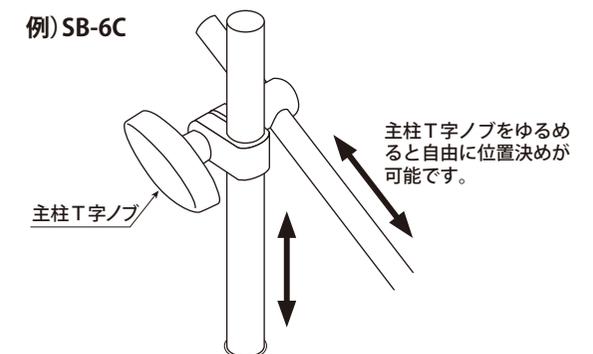


### 4 テストインジケータ等をアリ溝に取り付ける場合



### 5 SB-6C/SB-6B/SB-80P/SB-25Mの場合

例) SB-6C



測定器具などを取り付けた後、支柱、支柱の各ハンドルをゆるめ、お好みの位置に調整してください。

※SB-6C/SB-6B/SB-80P/SB-25Mの調整方法⇒ 5を参照してください。

※SB-100G/MB-7の調整方法⇒ 6を参照してください。

※SB-80Fの調整方法⇒ 7を参照してください。